

物価高 必死の防衛

食料品などの物価上昇が続き、困窮者支援団体は一日、東京都庁前で食料支援に取り組みました。開始一時間前には厚層の列が、過去最多の5000人が果物やパンなどを取り取り、医療や生活相談なども多くの人が並びました。(小瀬井自明、松田健)

東京都庁前



食料支援活動するボランティアの人たち。日、東京都庁前。写真：小瀬井自明

食料支援 開始1時間前に長蛇の列 「せめて安心の生活を」

たいわけではないが、これがないと、奥菜園が出すおみ人が人間の生活なのかと、い思ってしまう。今の社会は底辺の人たちがますます下に落ちていく。せめて安心して暮らせるようにしてほしい」

年々比べて人数も増えている。子連れとか若い人も増えている印象です。国には仕事を増やす政策を打ち出し、生活保護など「使おう人」を育てた制度にしてほしい」と話しています。

「100名ほどは参加が80」と話します。「100名は1時間前にははるばるは国を通過して入って向かいの食料品を手にして、通称海苔のしきりを買って、おみ園をめぐりました。」

生活困窮者支援活動を続けた指摘。「コロナ禍や物価高が原因で、低所得者に対する支援が、政府の住民税非課税世帯への給付金は、対象の範囲が狭い。少なくとも年収200万円以下のワーキングプアいる野菜や果物の配布が「増える」と言います。食料

小瀬井自明、松田健